



※並び順は左から立候補表明順 <b>氏名 (年齢)</b> <b>現新別</b> <b>政党名</b>		
	<b>松尾 崇氏 (40)</b>	<b>岩田 薫氏 (60)</b>
	<b>現</b> <b>無所属</b>	<b>新</b> <b>無所属</b>

<b>Q1・鎌倉市は2014年7月から家庭系ごみの戸別収集、有料化の導入を進めています。あなたはこの取り組みについてどのような意見をお持ちですか。</b>	<b>賛成</b>	<b>反対</b>
	基本的な考えとしては、現代の大量生産・消費・廃棄の趨勢を改め、ごみそのものを発生させない抑制策の確立を目指します。そこで安定した処理体制の確保のためには、新焼却施設の整備を急ぐとともに、ごみ発生抑制策として、事業系ごみの手数料改正、家庭ごみの戸別収集・有料化、生ごみ処理機の更なる普及に努めます。	有料化は家計を圧迫する。すでにゴミ処理費を税で負担しており、二重取り。戸別収集は、家の前にポリバケツが並び景観をこわす。収集車のCO2もたくさん排出する。しかも、5.2億円のコストがかかる。その上、3000トンの減量が限度。残ったゴミはどうするのか。焼却場の建設を急ぎ、その間、炉に余裕のある他市に燃やしてもらおう形が現実的。

<b>Q2・世界遺産登録を目指した「武家の古都・鎌倉」がイコモスから「不記載」の勧告を受けました。国・県・市は「再挑戦」を表明していますが、この方針に対するあなたの意見をお聞かせください。</b>	<b>賛成</b>	<b>反対</b>
	登録の目的は、商業活性化や観光客誘致ではありません。本来の目的は、貴重な歴史文化遺産を守ることです。そしてこれからの取り組みとしては、交通渋滞の解消や、緑地・景観保全などの、鎌倉のまちづくりや市民生活を守ることを最優先に行います。その結果として登録があると考えています。	世界遺産不記載の理由の1つに、イコモスは「都市化に懸念」との理由をあげた。鎌倉は、近年開発が著しい。古都にふさわしい景観保護、看板規制、緑地保全をキチンとしてこそ世界遺産登録だと考える。何の努力もしていない鎌倉は、その資格がない。いったん予算を凍結して、古都にふさわしいまちづくりを確立してから、再検討すべき。

<b>Q3・鎌倉市にとって最も重要な資源は何だと思いますか。またそれを今後のまちづくりにどのように活かしますか。</b>	恵まれた住環境と、誇れる市民力と考えます。先人たちが残してくれた多くの緑地は、都市化の中にあっても古都を守る貴重な空間として維持されてきました。しかし、開発との共存が危惧される今日、既存の法規制での対処が難しくなっています。市民の英知を結集し、持続可能なまちを後世に残したいです。	古都の周辺に広がる緑。「緑の城郭都市」としてのコリドー（回廊）状に広がる山林こそ最も重要。全国で最も厳しい開発規制の条例を作り、この緑を少しでも失わないよう監視すべき。市内の緑地を500メッシュの区割で率をはじき、このパーセントを常に守る。緑を生かしたまちづくりを推進。新たな開発は凍結する。
--	--	--

<b>Q4・最も重要な産業である「観光」。さらに観光を振興させる秘策はありますか。</b>	観光が当市の重要な「産業」か否かは、市民の間でも意見の大きく分かれるところでしょう。東京から至近距離にある古都として、年々、入込客の増加が目立ってきています。問題は市民生活との共生が鍵となります。車の乗り入れ規制やごみ処理、公共トイレの設置など、健全な振興策の実施が急務と考えます。	車の入り込みを規制する。十二所、大船、逗子との境界、藤沢との境界の4方面に大規模駐車場を整備し、観光で訪れた自動車を市内に入れさせない対策をとる。それでも入りたい車に課徴金を課す。電動自転車の駐輪場を設置、自転車シェアリングを推進。市内の駐車場は公衆トイレに改変。公共交通や自転車でゆったり散策してもらう。
---	---	---

<b>Q5・鎌倉市は今年度、初めて地方交付税交付団体となりました。このことに対するあなたの意見をお聞かせください。</b>	交付団体になったのは、市税収入が横ばいの中で、基準財政需要額が増加したことが原因です。その理由は、国が一定の方法で算出する額において、社会保障費が対前年に比べ大幅に伸びたことなどです。このことが市政運営に即影響することではありませんが、財政上の体力を落とさないためにも収入を上げる努力が必要です。	現市長の行財政改革は30%ぐらいしか実現していない。財政の健全化には、人件費のさらなる抑制が急務。地域手当、住居手当、超過勤務手当などの削減を進める必要がある。土地開発公社も廃止し、44億円の債務を解消する。再開業事業も見直し、ハコもの行政を改める。職員一丸となって、交付税交付団体からの脱却をはかる。
---	--	---

<b>Q6・大地震などへの備えが急務です。あなたが早急に必要だと思う防災の取り組みは何でしょうか。</b>	あらゆる災害に対策を講じることが重要です。消防・救急・救助体制の充実など、市民の生命と財産を守る防災・減災に努めます。具体的には、避難路や避難場所の確保に努めるとともに、コミュニティー防災活動への支援、防災に関わる専門家の育成、要援護者の援護体制の確立に取り組みます。	新たに津波から住民を守る避難タワーの建設には限界がある。それよりも、自治体やNPOなどからなる自主防災組織の強化、バックアップを行政が行い、大きな災害の際に、いかに連携して避難誘導するか、訓練を重ねることが重要。障がいのある方や老人世帯の住居地図によるマーキングを進め、サポート体制を推進。ペット防災も支援。
---	--	--



<b>Q7・市職員のやる気と能力を引き出すための施策を教えてください。</b>	やる気のある職員の能力を発揮できるような職場環境を整えることが大切です。そのためには、市民目線に立って仕事ができ、積極的なチャレンジで結果を出せる職員を責任あるポストに登用します。また専門的知識の向上を目指した外部研修を拡充します。即戦力の確保には職務経験が豊富な外部人材の登用も大事です。	若い職員を引き立てていくことが重要。積極的に能力のある職員を幹部に起用したい。今の人事評価制度は改め、毎年の職務の目標値を定め、これを達成した者にはA評価をつけ、報酬にも反映する能力給を導入したい。特に脱法的な開発を黙認してきた市役所3階の建設許認可担当課の職員を総入れかえし、法令遵守意識を徹底。
---	---	---

<b>Q8・若者の投票率が下がっています。今回初めて投票権を得た若者に、あなたが最も訴えたい施策は何ですか。</b>	行財政改革です。若者が政治に関心がない（投票率が低い）と負担が先送りされる可能性が高まります。借金を減らすなどの財政再建、老朽化した公共施設の統廃合、オープンでコンパクトな市役所の確立等、負担を先送りしない、次世代に責任ある市政の実現にむけての取り組みを訴えます。	「あなたと創る明日の鎌倉」をキャッチコピーに、若い人たちと一緒にまちづくりに励みたい。若者を政策プレーンに積極的に起用、彼らの提案を市政に生かす仕組みを作りたい。NPOと協働で若者の創業を支援するレンタルオフィスを市内に設置、さらに空き家活用プロジェクトを進め、若者が鎌倉に移り住みたいと思える環境整備をする。
--	--	---

<b>Q9・あなたが一番好きな鎌倉のスポットはどこですか。</b>	建長寺。特に真夏の夕暮れ時、涼しい風にあたり、蝉の鳴き声を聞きながら散歩すると心が癒されます。また、半僧坊からさらに少し登ったところにある「勝上けん」から望む景色が、鎌倉の中で一番好きです。	家の近くの海蔵寺。谷戸の雰囲気が残り、静かでゆったりした時間を楽しむことができる。特に人のいない夕暮れ時の寺周辺の景観がすばらしい。歴史の時空を超えて、自然と人間が調和したまちづくりを進めてきた鎌倉のすばらしさを肌で実感させてくれる。この静けさ、空気のおいしさを失っては鎌倉の価値はないと教える場所だ。
-----------------------------------	---	---

<b>Q10・あなたの人生を大きく変えた出来事を教えてください。</b>	会社員を辞めて、衆議院議員選挙のお手伝いをしたこと。日本の未来に対する危機感を抱くと同時に、多くの素晴らしい人生の先輩や同志と出会うきっかけになったため。	愛犬がガンで片足を切断したこと。大型犬だったが3本足で懸命に生きた。その犬と過ごした晩年の1年間のことを、第3回『恋文大賞コンテスト』に作文として応募。審査員賞を受賞した。鎌倉の人たちに実によくしていただいた。犬も多くの人の愛に見守られて、天国へ旅立っていった。こうしたやさしいきもちを持つ鎌倉の人たちを大切にしていきたい。
--------------------------------------	---	--

<b>Q11・「人生の一冊」を挙げるとしたら何ですか。</b>	上杉鷹山（童門冬二・学陽書房）	立松和平の『毒（風間 田中正造）』。この本は田中正造の体に住みついたシラミを主人公に、虫の目から飼い主の人生を語ったという異色の伝。国会議員を辞してまで民衆と共に歩み、時の権力と全力で闘った田中正造の生き様が伝わってきて、感動と勇気を与えてくれる。権力に虐げられた民とともに泣く姿に感銘する。
---------------------------------	-----------------	--

<b>氏名 (年齢)</b> <b>現新別</b> <b>政党名</b>		
	<b>松尾 崇氏 (40)</b>	<b>岩田 薫氏 (60)</b>
	<b>現</b> <b>無所属</b>	<b>新</b> <b>無所属</b>